

復

復の古い字形は𠄎で、𠄎は、二つ重ねたような形をした酒器の象形です。𠄎は、止(足の裏の象形)をさかさにしたものの変形です。復は、復の本字で、“同じ道を重ねて行く”という意味の字です。𠄎が“重ねる”という意味、𠄎が“歩く”意味を表わしています。今では復は𠄎つまり“重ねる”という意味の部首として用いられています。

複は、“布を重ねて作った着物(ネ)”という意味の字です。わが国では、“合わせ”と言います。夏の着物“ひとえ”は「一重」という意味のことばですが、複衣に対して「単衣」と書きます。今では、単を英語のシングル、複をダブルの意味に使うことがあります。また、衣類に関係なく、広く“重なり合う”“こみあう”という意味にも使います(“合わせ”のためには別に袷という字が作られました)。複雑、重複。

腹は、“肉体のなかで、最も多くの器官が重なり合っているところ”という意味で、月と復とでできています。“はら”には腸が重なり合っているからです。心の中に持っている考えを「腹案」というように“心”の

意味にも使います。

復は、“一度通った道を重ねて行く(彳)”という意味の字で、“かえる”ことを表わしています。行きに通った道を通ってかえるのが復なので、別の道を通って帰ったのでは復とは言えません。今では道に関係なく、“物事をくり返す”“もと通りになる”という意味に使います。復習、回復、復旧、復活。

馥は、“行ったり来たりする”意味の復と香とで、“良い香がただよう”という意味を表わしています。馥郁たる香気。

覆は、包みおおう意味の𠄎に復を加えた会意形声字。𠄎は上からと下からとで物をおおい包む形を表わした部首です。おおいは取っでも、必ずまた付けるので、復の意味と音とを加えて覆としたのです。